

へる。本圖、右下隅に方形重廓陽文「亮仙」の一顆を鈴す。蠹損著しく、而も他に比照すべき印影もないが結體は略々畫史所掲のそれと同系のものゝ如くで

内 外 彙 報

傳教大師奉讀展覽會 來春延曆寺に於て比叡山開創千百五十年記念大法要の嚴修せらるゝに先つて、是れに因んで大阪市美術館に於て十一月一日より同月三十日まで一ヶ月間上記の展觀が催された。延曆寺を初め、山門派諸寺院所藏の繪畫、彫刻、文書類を蒐集したもので目錄に依ると繪畫五十一點、彫刻五點、文書二十三點、工藝品八點等が錄されて居る。會期中に多少の陳列替があつたと共に、目錄に收録されない番外出陳の數點があつたから、筆者の品鑑し得たものには多少の出入があるが、此の種の展觀として當然な多數の國寶類を一堂に陳列したことは最も我々觀者を喜ばせた。全出陳作品中特に珍しく見たものは、在來殆んど展觀されたことの無かつた太山寺の佛畫類、たとへば南北朝の頃の作ながらも、年代の降つた佛畫中では有數の名品とも云ふべき不動明王二童子像の如き、また稚拙の畫品に却つて一種の興味を思はせる法華曼茶羅の如きと共に、寺に元信と傳稱する山水圖六曲屏一雙等であつた。また延曆寺藏品中の『慧可』『道信』二顆の印記を見る山王祭圖六曲屏一雙は、元祿を僅に上るばかりで、畫品また高からぬものながら珍蹟の一種として興味饒かに、また極めて繊細な線を自由に驅使した泥描見返繪を有する鎌倉期の法華經等も注意すべき作品であらう。彫刻類中には平安初期と鑑せられる四天王寺の阿彌陀三尊像、其來迎らしい像容に近時學界の注意を喚んだそれ、及び既に定評ありて著聞するものながらも板彫念持佛中の優品としての横藏寺藏法華曼茶羅等があつて、一乗寺の高僧像、來迎寺の十二天、十界、十六羅漢など他の國寶の名品と共に、觀者を刮目させるに足るものが多かつた。唯此の展觀に就いて筆者の解

ある。(渡邊)

し難かつたことは繪畫作品の年代推定が概して古く、我々の管見に比して著しい差があるものを見たことであつた。(田中)

大倉集古館創立二十週年記念展覽會 過ぐる昭和五年、男爵大倉喜七郎氏は、現代日本畫を海外に紹介し、併せて、日伊兩國の親善を期して、八十餘名の現代日本畫家に作品を求め、百二十餘點を伊太利亞に送り、羅馬ヴィーア・ナチヨナレに於て展觀し、其所期の効果を收め、大いに兩國文化に貢獻するところがあつた。而して、今回、大倉集古館に於ては、其創立二十週年を記念して、十一月三日より十二月五日迄、上記の名目のもとに、之等の作品に數十點を加へて陳列し(平福百穂の「荒磯」、竹内栖鳳の「夏冬水墨山水」等の如く羅馬展出品作中、今回、出品のなかつたものもある)、一般に公開展觀した。會場の都合によつて四回に互つて陳列替が行はれたが、各美術團體を綜合し、大家のみならず、新進をも加へたる昭和初頭の日本畫壇を通觀し得たことは興味あることであつた。而して、今、全作品を通觀して、必ずしも佳作のみとは云ひ難く、又各畫家に就て見る時、必ずしも其本領を全體的に發揮し得なかつたものもあるが、然し、相當に秀作が多かつた。竹内栖鳳の「蹴合」「城外風景」、横山大觀の「夜櫻」「瀟湘八景」、川合玉堂の「柳蔭閑話」、前田青邨の「洞窟の頼朝」、小林古徑の「木兎」等は、錄記すべき作品であつた。(隈元)

圓山應舉展覽會 十一月十日より同月廿五日まで、恩賜京都博物館に於て上記の展觀が催された。傳山跡鶴嶺筆應舉肖像、眞仁法親王御筆應舉墓誌、遺印二十三顆及び肉池、印譜、潤筆料領收書、繪入消息、版本人物圖法等の外、遺

群虎圖	金地着色	六曲屏一雙	田中一馬氏藏
孔雀圖	紙本水墨	六曲屏一雙	原邦造氏藏
群仙圖	紙本淡彩	六曲屏一雙	保昌山保存會藏
松鶴梅狗子圖	紙本着色	六曲屏一雙	平井仁兵衛氏藏
藤花圖	金地着色	六曲屏一雙	根津嘉一郎氏藏
深山大澤圖	紙本淡彩	六曲屏一雙	仁和寺藏
雪梅圖	紙本水墨	裱六面 壁貼附一面	草堂寺藏

等の大作の多數はあつたが、晩期の應舉を代表するに足る偉製を全く見ることを得なかつたのは稍、觀者を淋しがらせた。無論これは一に所藏者の意思に據るもので恐らく止むを得ざるものがあつたのであらう。是れに引き換へて早期の作品の多數、即ち圓一嘯の落款あるもの四點、夏雲の三點、仙嶺の十點等を陳列して、此の畫宗の過去の道程を遺憾なく示し得たことは、我々にとつて何よりも珍らしかつた。眼鏡繪及び眼鏡繪類似の作品二十一枚、九幅、一帖等は大眾を喜ばすに足るもので、同時に應舉繪展觀の定跡とも云はゞ云ふべきものであるが、其等の遺品中應舉の正筆と目すべきもの一も遺存しないこと（應舉のものにはあるが、何れも正筆とは認め難い）は既に定評のあるもの、強ひて大眾の爲めに迎合する必要も無かつたと思はれた。若し是等の陳列に別種の意義を求めるなら、寧ろ應舉の展觀から切り離して、類品の多數を別に一室に陳列し、當代繪畫の動向の一面を示すべきであらう。そは兎もあれ、應舉の如き偽跡贋作の無數とも云ふべき中から、是義の壹百點を選んで、而も殆んど贋偽の作と認むべきものの無かつたことに就いて、自分は其の老功な當事者の鑑識に深く敬意を表するものであることを明かにして置きたい。（田中）

櫻間青崖作品展觀 十一月廿八日より卅日迄三日間當美術研究所に於て常例

花鳥圖	杉戸改裝	二曲屏	東京子爵	本多忠昭氏藏
高士觀瀑圖	文政八年	紙本著色	岡崎	宮原敦氏藏
宮原逸八像	文政八年	絹本著色	同	村山てい氏藏
孔明像	文政九年	同	同	荻須績氏藏
張仲景像	同	扇面淡彩	同	宮原敦氏藏
墨竹圖	弘化二年	紙本著色	同	同
大黑天圖	天保六年	扇面著色	同	星田重吉氏藏
大黑天圖	弘化三年	紙本著色	同	渡邊裕氏藏
朔臣持桃圖	同	同	同	荻須績氏藏
韓信忍耻圖	弘化元年	同	東京	宮本瑋氏藏
山水圖	弘化四年	絹本著色	岡崎	木津泰氏藏
楓林停車圖	同	紙本著色	同	近藤半助氏藏
春景山水圖	同	同	同	柴田淺吉氏藏
枯木雀圖	同	同	同	岡田撫琴氏藏
山水圖	同	同	同	同
大黑天圖	嘉永三年	同	同	千賀平四郎氏藏
壽星圖	同	同	同	宮原敦氏藏